

校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標)

(教諭)

| キャリア・ライフステージ 年齢 (目安) 教職経験年数 (目安) | 採用時 (～22歳) | 基礎力の形成期 (23歳～27歳) 1～5年 | 実践力の向上期 (28歳～32歳) 6～10年 | 実践力の充実期 (33歳～37歳) 11～15年 | 実践力の発展期 (38歳～47歳) 16～25年 | 総合力の発揮期 (48歳～) 26年～ | |
|--|---|--|---|---|--|--|-----------------------------|
| 校内での役割 | 学級担任、副担任等 | | 主任職(学年、校務分掌) | | | | |
| 目指す教員像 | 学習指導、児童生徒理解、生徒指導、学級経営など、教育活動に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 | 初任校における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。 | 複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基礎を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。 | 学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。 | 中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。 | 教諭としてのこれまでの実践を基に、総合力を発揮しながら円滑な学校運営に貢献している。 また、教員としてのこれまでの豊富な経験を踏まえ、若手教員へのサポートを行うなど、人材育成に貢献している。 | |
| 岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修) | 初任者研修 | 2年目研修 | 3年目研修 | 教職経験者 5年研修 (6年目) | 中堅教諭等 資質向上研修 (11年目) | ステージアップ 研修<前期> (45歳～) | ステージアップ 研修<後期> (55歳～) |
| 1 教員としての豊かな人間性 | <ul style="list-style-type: none"> 自ら学び続ける意欲・探究心 使命感、責任感、倫理観 教育的愛情、人権意識 豊かな人間性 コミュニケーション力 課題に立ち向かう力 | | | | | | |
| 2 学習指導力 | <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメント 教科教育等の専門性 確かな学力を育む授業 | | | | | | |
| 3 生徒指導力 | <ul style="list-style-type: none"> 発達支持的生徒指導 いじめ等の問題行動・不登校等への対応 教育相談 | | | | | | |
| 4 マネジメント力 | <ul style="list-style-type: none"> 学校組織における連携・協働 危機管理 関係者等との連携・協働 | | | | | | |
| 5 復興教育の視点 | <ul style="list-style-type: none"> 復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解するとともに、児童生徒が震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を実践している。 | | | | | | |
| 6 キャリア教育の視点 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の考え方や重要性を理解している。 社会や経済の状況に関心を持っている。 | | | | | | |
| 7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育 多様性への配慮 | | | | | | |
| 8 ICTや情報・教育データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ICTや情報・教育データの活用 | | | | | | |

(校長)

| 総合力の発揮期 (校長) |
|---|
| 校長 |
| <ul style="list-style-type: none"> 教職員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、学校を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 新任校長研修 |
| <ul style="list-style-type: none"> 校長としての素養 マネジメント力 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●教諭として高めてきた素養・資質 ●教育者としての高い見識 ●学校経営計画の達成 ●教職員の管理 ●教職員の人材育成 ●事務管理 ●関係者等との連携・協働 ●危機管理 ●学校をとりまく情報の収集・分析等 |

※各視点における総論については、「校長及び教員としての資質の向上に関する指標の改正について」(別冊P4～6)に掲載しているほか、別紙に記載しています。

【別紙】

校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標) 各視点の総論

(教諭)

| キャリア・ライフステージ 年齢 教職経験年数 (目安) | 採用時 (～22歳) | 基礎力の形成期 (23歳～27歳) 1～5年 | 実践力の向上期 (28歳～32歳) 6～10年 | 実践力の充実期 (33歳～37歳) 11～15年 | 実践力の発展期 (38歳～47歳) 16～25年 | 総合力の発揮期 (48歳～) 26年～ |
|--------------------------------------|---------------|--|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 2 学習指導力(総論) | | <p>○カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、組織的かつ計画的に、教育課程の編成、実施、評価、改善を図るなど、教育活動全体を通して児童生徒の資質・能力を育成している。</p> <p>○各教科等に係る資質・能力を育むために必要となる知識を身に付け、「指導と評価の一体化」を意識しながら、継続的に専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p>○児童生徒の心身の発達や学習過程に関する理解に基づき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、児童生徒の主体性を育みながら、学習者中心の授業を実践している。</p> <p>○「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業を実践し、児童生徒のつまずきなどに応じて授業を工夫・改善しながら、主体的・対話的で深い学びを実現している。</p> | | | | |
| 3 生徒指導力(総論) | | <p>○常にカウンセリングマインドを持ち、他の教職員や関係機関等と連携しながら、日常の児童生徒との人間的な触れ合いや問題行動への毅然とした対応を通じて信頼関係を築き、相互関係にある個と集団を高めることを意識して指導している。</p> <p>○人権に関する深い認識のもと、児童生徒一人一人の人格や価値観を尊重し、学校生活のあらゆる場や機会を捉え、健全な成長を促し、自ら自己実現を図るための自己指導能力を育成している。</p> <p>○児童生徒の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の多様性を踏まえながら信頼関係を構築するとともに、それぞれの可能性や活躍の場を引き出す集団づくり(学級経営)を行っている。</p> <p>○教育相談の意義や理論を理解し、児童生徒一人一人の課題解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、学校生活への適応や人格の成長への援助を行っている。</p> | | | | |
| 4 マネジメント力(総論) | | <p>○学校経営計画のもと、学校内外の教育資源(人・物・資金・情報・時間等)を効果的に活用し、評価・改善の視点を持って業務を推進している。</p> <p>○児童生徒や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害等を常に意識し、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備えている。</p> <p>○育てたい児童生徒像や目指すべき教育ビジョンを保護者や地域住民と共有し、目標の実現に向けて連携・協働する姿勢を身に付けている。</p> | | | | |
| 5 復興教育の視点(総論) | | <p>○東日本大震災津波の教訓を継承し、児童生徒が生きていく上で直面する課題を乗り越えていけるよう、命の大切さや人・地域とのつながり、安全などについて、実際の体験を通じた学びを推進することにより、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成に取り組んでいる。</p> | | | | |
| 6 キャリア教育の視点(総論) | | <p>○「いわてのキャリア教育指針」を理解し、地域社会や企業等と連携しながら、児童生徒に、総合生活力と人生設計力を育成するなど、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。</p> | | | | |
| 7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点(総論) | | <p>○「いわて特別支援教育推進プラン」に基づき、障がいに関する知識や配慮等についての理解を深めるとともに、特別支援教育コーディネーター等の関係者と連携を図り、個に応じた指導や多様な価値観等に配慮した指導を行うことで、「共に学び、共に育つ教育」を推進している。</p> <p>○特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に対する多様性と包摂性の視点を持ち、組織的に対応するために必要な知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。</p> | | | | |
| 8 ICTや情報・教育データの利活用の視点(総論・再掲) | | <p>・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。</p> <p>・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。</p> | | | | |